

⑬＜現代的な諸課題への対応 インクルーシブな教育＞

インクルーシブな教育のポイントを共有して取り組む 【キーワード】 発達障がい 合理的配慮 外部講師の活用

【事例1：発達障がいの理解と支援について】

1 ねらい

外部講師（選定や依頼は担当部署が実施）を利用し、校内で発達障がいの児童生徒の困り感や支援の在り方について共有を図り、校内で各自の実践に取り組む。

2 内容

月	内 容	担 当
4～5	発達障がいサポーター養成講座（基本的な知識と対応の研修）	研修係
6	発達障がい支援力アップ出前研修①（学校の課題に応じた研修）	研修係
9	発達障がい支援力アップ出前研修②（学校の課題に応じた研修）	研修係

☆「発達障がいサポーター養成講座」 申し込み先：長野県発達障がい者支援センター(026-227-1810)

☆「発達障がい支援力アップ出前研修」 申し込み先：特別支援教育課(026-235-7456)

3 方法

- (1) 発達障がいサポーター養成講座（講義と疑似体験 等）を活用し、発達障がいに関わる基礎的な知識を共有する（講師の選定と依頼は、発達障がい者支援センターが実施）。
- (2) 発達障がい支援力アップ出前研修で、特別支援学校の先生等から「通常の学級における配慮が必要な児童生徒への具体的な支援」について、校内の先生方が日頃課題と感じていることをテーマにした講義を受ける。講義内で、明日から各学級で実際に取り組みそうなことを考える時間を確保する（講師の選定と依頼は、特別支援教育課が実施）。
- (3) 各学級で取り組みそうなことに取り組む（教室環境のUD化、授業のUD化等）。
- (4) 発達障がい支援力アップ出前研修で、前半は、先生方から各学級の教室環境や教材教具についてお互いに紹介するワークショップを実施する。後半は、講師とそれぞれの学級の取り組みについて話題にしたり、助言を受けたりする。

4 校内研修の様子

- ・どのようなことに困り感をもっているのかを疑似体験することにより、普段の自分の支援を見返すきっかけとなった。
- ・講義のみでなく、実体験や自分の事例について一緒に考える研修会を軸にして、日々の実践につながっていった。



研修後のまとめ

- 学級の中で困っている子どもへの具体的な支援を考えるきっかけとなりました。子どもたちの困り感を具体的にイメージしながら授業づくりをしたいです。
- それぞれの研修会で、講師の先生と一緒に課題を考えたり、事例を検討したりすることにより、日々の実践と繋がる研修となりました。

【事例2：合理的配慮の理解と校内での取組】

1 ねらい

合理的配慮について共有し、学年各学級で事例を通して具体的に検討しながらそれぞれの実践に取り組む。

2 内容

月	内 容	担 当
4～5	発達障がい支援力アップ出前研修	研修係
6	「合理的配慮実践事例集」 事例の読み合わせ	各学年等
6	「合理的配慮 実践事例集」ワンポイント配慮の活用	各学年等
7～8	学年会等の機会を利用し、お互いの実践の共有	各学年等
9～10	校内での実践紹介	研修係

☆「合理的配慮 実践事例集」(長野県教育委員会 平成29年3月 発行)

※ 長野県教育委員会HPよりダウンロード可



3 方法

【基礎的な内容理解の段階】

(1) 発達障がい支援力アップ出前研修を活用し、「合理的配慮」に関わる講義や演習を受ける。講義内で、日頃行っている支援と合理的配慮の関連を扱い、日頃の支援の多くが合理的配慮と繋がることを確認する。

【日々の実践に繋がる支援についてグループで共有する段階】

- (2) 「合理的配慮 実践事例集」第3章「実践事例」から、事例の読み合わせをし、各自で取り組みそうな合理的配慮についてグループ内で情報交換をする。
- (3) 「合理的配慮 実践事例集」第5章「ワンポイント配慮」(例:「ひらがなの習得が難しい」等)を参考に、担当している児童生徒について各自が考えた具体的配慮を小グループで協議し、お互いの実践を共有する。

【各自の実践と情報共有を繰り返し行う段階】

- (4) 「ワンポイント配慮」を参考に各自が取り組んでいる実践について、短時間授業参観をしたり、作成した教材を見合ったりし、学年会で話題にする。
- (5) 「ワンポイント配慮」を参考に自分が取り組んだ事例について、実際の教材や児童生徒の学習物を持ち合っ、ワークショップ形式でお互いに紹介して学び合う。

4 校内研修の様子

- ・「ワンポイント配慮」を参考にすることにより、子ども達のつまずきの原因や背景を探るような話し合いが行われた。
- ・校内にも参考になるよい事例が多くあることを共有し、日頃から子どもの様子や支援の在り方について話題にすることが増えた。



研修後のまとめ

- 「合理的配慮」は難しいことだと思っていましたが、他の子どもたちと学ぶために同じスタートラインに立つためにも大切な支援だと分かりました。
- 先生方と事例検討することにより、子どもの困り感に応じた支援が具体的に分かりました。自分の授業に工夫できそうです。